

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

##### ●東京外国語大学総合国際学研究科言語応用専攻

##### 「即戦力通訳者養成のための高度化プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

通訳技能に必要となる背景知識を涵養すべく、社会科学諸分野で開講されている科目と連携を図り、通訳実習の機会を提供してもらうなどの相互交流を図った。しかしながら、高度に専門的な知識が要求される場面で、実習にあたった学生が十分なパフォーマンスを残すことができないことが散見された。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

最も考えられる要因としては、通訳を専攻する学生を対象とした社会科学系科目が存在しなかったこと、加えて科目実現に求められる人材の確保が困難であったことの2点が指摘される。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

こうした問題の解消のため、本プロジェクトで特別に社会科学分野で活躍する講師陣をゲストスピーカーとして定期的に招いた。また、講演前には必ず通訳を担当する学生とのブリーフィングの時間を設け、専門性に学ぶ時間を確保するよう努めた。